

大学生における上巳の節句に対する認知と行動：
祝い方・行事食・願いに着目して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター 公開日: 2024-03-14 キーワード (Ja): 年中行事, 上巳の節句, 雛人形, 行事食, 大学生 キーワード (En): 作成者: 村上, 陽子, 信國, 瑞希 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/0002000272

大学生における上巳の節句に対する認知と行動

—祝い方・行事食・願いに着目して—

村上 陽子, 信國 瑞希

(静岡大学教育学部家政教育系列)

Awareness and behavior towards *Joshi-no-sekku* among university students:
Hina-ningyo doll possession status, traditional foods, and wishes.

Murakami Yoko and Nobukuni Mizuki

Abstract

Annual events are ceremonies held at each turning point of the year, such as New Year's, the five seasonal festivals, and the equinoxes. This study investigated the current status and issues regarding the “Go-Sekku” (five seasonal festivals) among university students. This paper examined the *Joshi-no-Sekku*, one of the five festivals. *Joshi-no-Sekku* is also known as *Hina Matsuri* (Girls' Festival). In Japan, it is customary for families with girls to display dolls called “*Hina-ningyo*” (*hina* dolls) on March 3, the “*Joushi-no-Sekku*” holiday, to wish for their healthy growth and happiness. The dolls are dressed in luxurious kimonos modeled after the Heian court nobles and are said to take away the bad luck of the girls who own them. In the days leading up to March 3, there is a custom of eating traditional dishes such as *chirashi-zushi*, *hamaguri* (clam) soup, *hina-arare* (colorful rice cake cubes), and *shirozake* (white sweet sake). The following results were obtained. The awareness and experience rate of *Joshi-no-Sekku* among university students was significantly high. *Chirashi-zushi* and *hina-arare* were eaten by the majority of the students, but *hamaguri* soup and *shirozake* were rarely eaten. More than 60% of the university students displayed *hina-ningyo*, but only about 10% displayed peach blossoms or *hishimochi* (diamond-shaped rice cakes). Few people understand all of the wishes that are included in *Joshi-no-Sekku*. More than half of the students shared the same dolls with their sisters. This indicates that they did not fully understand the origin of *hina-ningyo*. Few students celebrated “*Joshi-no-Sekku*” wearing kimonos, indicating that the rituals of the festival are not being observed. The survey results suggest the need to provide opportunities to learn about annual events at home and at school.

キーワード： 年中行事 上巳の節句 雛人形 行事食 大学生

1. はじめに

我が国には年中行事や人生儀礼などの行事がある。年中行事とは、日々の生活の繰り返しの中で家・学校・地域などの集団において、毎年同じ時期に行われる種々の行事をいう¹⁾。古くは人日、上巳、端午、七夕、重陽の五節句や、正月・盆の行事などがある¹⁾。毎年繰り返される年中行事に対して、人が誕生してから死ぬまでの一生の中で通過すべき幾つかの段階があり、その段階の区切り目に儀式（儀礼）が執り行われる。これを一般には冠婚葬祭や祝儀・不祝儀などといい、学問的には人生儀礼（通過儀礼）という¹⁾。

これら儀礼は、先の年中行事と重なっているものも多い。例えば、初節句が挙げられる。赤ちゃんが生まれて初めて迎える節句を「初節句」²⁾と呼び、女兒は上巳の節句（3月3日）、男児は端午の節句（5月5日）に行く。初節句は一生に一度のお祝いで、それ以降の節句よりも盛大に祝い、子どもの健やかな成長を祈る。地方によっては「初子の初節句」といって第一子の初節句だけを特別に行う風習もある³⁾。初節句を迎えることを一個人のこととして捉えると、一生に

おける通過点であるため、人生儀礼となる。一方、毎年3月3日、5月5日には家庭や地域で各節句の行事が行われており、これらは年中行事となる。その他、初誕生や成人式、学校の入学式や卒業式なども同様なものとして捉えることができる¹⁾。

人生儀礼と年中行事は密接に関連しており、それぞれにまつわる食べ物や室礼、しきたりなどがあり⁴⁾⁵⁾、各地域や家庭で伝承されてきた⁶⁾。正月・盆の行事など家庭で行われる行事は、親から子、子から孫へと家庭内で継承され、家族の繋がりを強化する役割を有する。つまり、人生儀礼や年中行事は、日本人の生活様式すべてに関わる重要な文化といえる。

一方、近年、少産少子化や核家族化などのライフスタイルの多様化や産業構造の変化などにより、人生儀礼や年中行事のあり方が大きく変容し、簡略化・消失するなど、その継承が危惧されている⁶⁾。加えて、若い世代における人生儀礼や年中行事に対する認知度や実施経験が低いことが報告されている⁷⁾⁸⁾。

著者らは前報⁹⁾¹⁰⁾において、大学生における人生儀礼や年中行事の認知度や経験率について調査を行った。

その結果、人生儀礼では、七五三は認知度・経験率とも高い一方で、内容の理解は不十分であった。他の産育儀礼や年祝いの認知度・経験率は著しく低かった。年中行事においても、五節句に対する理解は不足していた⁹⁾。従来、人生儀礼や年中行事などの伝統文化は、親から子、孫へと日常生活の中で傳承されてきたが、近年の家族のあり方や生活様式の変化などにより、家庭内における文化傳承機能は著しく低下している実態が示唆された。これらのことから、学校など家庭以外の場において、人生儀礼・年中行事の謂れや意味、背景などの知識を習得する機会の提供が必要といえる。

そこで、本研究では、上巳の節句と端午の節句の認知や実施状況について調査を行なった。本稿では、上巳の節句の結果を報告する。本行事に着目した理由は、第一に、人生儀礼・年中行事両方の要素を有することが挙げられる。人生儀礼や年中行事は生活や人生に深く関わるものであることから、両方の要素を持つ上巳の節句の現状と課題を把握することにより、文化繼承のあり方を考える手立てとできる。第二に、上巳の節句に用いる雛人形は、静岡県との伝統文化と関係が深いことが挙げられる。これにより、行事と地域を関連させた文化繼承のあり方を再考することができる。本研究で得られた成果をもとに、伝統文化の教材開発に繋げ、伝統文化の理解・繼承・創造の一助としていく。

2. 研究の背景：上巳の節句について

(1) 「節供」と「節句」

「節句」は日本で作られた言葉である¹¹⁾。「節句」は江戸時代初期までは「節供」と表記されており、元は節日の供物の意味であった¹¹⁾。その後、次第にそのような供物をする日そのものを指すようになり、平素とは区別される日、あるいは単なる区切り（句切り）の日という意味合いが強くなったために、「節句」という字が当てられるようになった¹¹⁾。一般には「節句」、民俗学では「節供」を用いることが多い¹¹⁾。本稿では「節句」を用いることとする。

(2) 五節句（節供）

五節句（人日、上巳、端午、七夕、重陽）は唐の時代に、暦法によりその日（節）が定められて日本に伝わったものである¹²⁾。元々、日本には「節目」という観念があったため、季節の変化を表す「節」と融合して特定の年中行事になったとされる¹²⁾。日本では、江戸幕府が五節句を式日と定め、このうち上巳の節句は女兒、端午の節句は男児を対象としたものである¹³⁾。

前述の通り、五節句は年中行事であると同時に、人生儀礼の一つに位置付けられるものがあり、上巳の節句と端午の節句が該当する³⁾。初節句の際、上巳の節句には雛人形、端午の節句には五月人形、兜、鯉のぼりが母の実家や親類から贈られ³⁾、贈られた家ではこれらを飾り付け、返礼として祝いの膳を設けたり、菱

餅や柏餅を配ったりする¹⁴⁾。初節句では、女兒は被布や着物、男児は陣羽織などの晴れ着を着る²⁾。つまり、初節句を迎える女兒・男児には重要な人生儀礼である。

(3) 上巳の節句

1) 歴史

上巳の節句は、「三月節供、3月3日節供、雛節供、桃の節供」ともいう¹¹⁾。現在は女兒の成長と幸福を願う行事であるが、元は厄祓いであった²⁾。現代では、女兒の初節句の家を中心に、菱餅・桃の花・白酒・雛あられなどを用意し、雛人形を飾って女兒の成長を祝う雛祭りがよく知られているが¹¹⁾、こうした華美な行事となるのは江戸時代からである¹⁵⁾。

上巳とは、陰暦3月最初の巳の日のこと¹⁶⁾、古代中国ではこの日は邪気や穢れが襲ってくる忌日とされ¹²⁾、厄災から逃れるため¹⁶⁾、水辺で禊が行い、桃花酒を飲み¹²⁾、草餅を食べ¹¹⁾、紙の人形に自分の身の穢れを移し水に流し²⁾、厄を祓った（この行事を上巳節という）¹³⁾。日本でも、自分の身代わりに形代（かたしろ：紙で作った人形（ひとがた））を作り、これで自分の身体を撫でて身の穢れを移し、海や川に流して厄災を免れるという風習があった¹²⁾。この日本古代の水辺における禊や祓えの思想と、中国の習俗が結びつき、宮廷社会で特異な発展をした後、江戸幕府がこの日を五節句に定めたこともあり、江戸時代に民間に普及した¹¹⁾。また、この前後に営まれていた農耕開始を控えての様々な祭りと習合して、現在のような節句が成立したとされる¹¹⁾。災厄除去の願いを背景にした行事や、磯に出たり近くの山に登って馳走を食べたりしながら皆で遊び暮らすことも広く行われている¹¹⁾。

2) 飾り方：雛人形

現在の華やかな雛人形の源は、心身の穢れを移し流し棄てた祓え具としての人形である¹¹⁾。上述したように、古代中国の上巳節という行事が日本に伝わった平安時代、貴族の子女の人形遊びを「ひいな遊び」と呼んでいたことから、「ひな人形」と呼ばれるようになり、雛祭りに発展した²⁾¹⁷⁾。祓いの具であった人形は、幼児の身を守るため、生後50日か100日に人形を贈り、3歳になるまでお守りとして持たせた¹⁵⁾。これが天児（あまがつ）・這子（ほうこ）の贖物（あがもの：身の穢れや災難を代わりに負わせて水に流す祓えの道具）である¹⁵⁾。今でも一部地域に残る「流し雛」の風習はこの系統であり¹⁵⁾、子どもの穢れを雛人形に移して川や海に流したことに由来する¹³⁾。やがて人形は呪術性を失い¹²⁾、徐々に手の込んだものとなり、海や川に流さず、飾って楽しむように変化した²⁾。雛人形が今のような段飾りになったのは江戸時代からである²⁾。

3) 行事食

節句は1年の節目の祭りであり、日本では句のものが多く用いられてきた¹⁷⁾。早くから3月3日は節日として祝われ、桃の花を飾ったり桃花酒を飲んだりする

風習がある¹⁷⁾。草餅や菱餅、白酒、蛤、桃の花などで祝うのは、かつて蓬の草餅や桃によって邪気を祓おうとした名残であり¹¹⁾、これらは縁起物でもある。

旧暦3月3日は桃の花の季節ということもあり、桃の呪力で厄除けを行っていた¹⁷⁾。また、桃は多くの実がなることから多産の象徴といわれ、その生命力から不老長寿、魔除けの力があると考えられた¹⁷⁾。奈良・平安時代には水辺の行事を催し、桃酒を飲んだり蓬の草餅を食べたりして、桃・蓬により身体の邪気を祓おうとした¹¹⁾。現在でも鳥取県の一部などで行われている流し雛では、雛人形で身体を撫でた後、それに菱餅や田螺・桃の枝などを供え白酒をかけた後、3日の夕方、棧俵にのせて川に流す。こうした行事には、かつての水辺の祓えという古い心意が伝えられている¹¹⁾。

(4) 伝統文化継承の必要性

1) 学校における伝統文化継承の現状と課題

人生儀礼や年中行事では、地域で祭りを開催したり、伝統的な衣服を身につけたり、自然や神仏への感謝の思いや未来の幸福への願いが込められた料理を調理・共食したりする⁸⁾。一方、近年では人生儀礼や年中行事が簡略化・消滅するなど、その継承が危惧されている。こうした状況を受けて、小・中・高等学校学習指導要領では、伝統と文化の継承・発展・創造に関する教育の充実が求められている^{18) 19) 20)}。

先述したように、上巳の節句は人生儀礼・年中行事両方の要素を併せ持ち、人の生活や人生に深く関わる。生活や人生に関わる教科として家庭科があり、その学習内容を見ると、人生儀礼としては家族・衣領域(祝い着)、年中行事としては食領域(行事食)・住領域(雛人形の準備・設置・収納)、消費領域(購入)などと関連していることから、多面的な学習が期待できる。一方、家庭科をはじめとする学校教育では、人生儀礼や年中行事は十分に学習されていないのが現状である。このことから、上巳の節句に着目することで、伝統文化に関する学習を深めることが期待できる。

2) 地域の伝統文化の理解と継承

静岡県は、上巳の節句で飾られる雛人形において長い歴史がある。室町時代、静岡では公家の風習により、随所で若い女性へ「ひいなはりこ」などを贈った記述があり、雛遊びが定着していたとされる²¹⁾。現在、伝承される代表的なものとして、駿河雛人形、駿河雛具、雛の吊るし飾りの3つが挙げられる。駿河雛人形・雛具は平成6年に伝統的工芸品に指定されている²²⁾。

(a) 駿河雛人形

駿河雛人形は、静岡県の伝統工芸品の一つである²³⁾。静岡には正月、3月、5月の節句に「雛天神」を飾った風習があり、駿河雛人形は天神信仰に基づく「天神様」製作を起源として始まったとされる²³⁾。そのルーツは、桐塑による煉天神(土天神)という説がある。天神とは菅原道真を模した人形で、当時は「天神は雨降る神」

として、その後、学問書道の神とした信仰に変化した。江戸末期に衣装を着せた「衣装着雛天神」が作られ、これが駿河雛人形の起源ともいわれる²³⁾。駿河雛人形の特徴は、第一に、他地域と比べて胴体部に太い藁胴が使われていることである²³⁾。これは、静岡は稲作が盛んで、稲藁が入手しやすかったためである。第二に、人形の衣装の上下が分かれていることであり、上下一体の京都製と異なる。これにより、分業による生産・量産化が可能となり、人形の胴体生産では全国生産の約7割を占めている²³⁾。

(b) 駿河雛具

静岡県は雛具生産が盛んである。背景には、江戸初期、久能山東照宮改修、浅間神社造営の際、全国から集められた優秀な職人が完成後も静岡に留まり、木地指物、挽物、漆、蒔絵などの技術を利用し木漆工芸品を作成していたことである²¹⁾。本格的な雛具製造は明治15年頃に始まり、三ツ揃、十三揃、三棚、重箱などの製品全てに蒔絵が施され、明治35年頃には多彩な漆芸技法を用いた雛具が作られた²¹⁾。関東大震災後は関東の職人が静岡へ移住し、高度な技術を駆使した製品が作られ、全国的な産地となった。戦後も生産が急増し、全国の90%を占める²¹⁾。駿河雛具は御所車、箆、長持など種類も多いが、全て本物と同じ工程で作られていることも特徴の一つである²²⁾。

(c) 雛のつるし飾り

雛のつるし飾りは、全国では珍しい、和裁細工のさげ物の風習である²⁴⁾。現在は、静岡県伊豆稲取地区(雛のつるし飾り)、福岡県柳川市(柳川さげもん)、山形県酒田市(傘福)で行われており、この3地域が「全国三大吊るし飾り」と呼ばれ、歴史的背景や由来・文献などの残る縁の地として親しまれている²⁵⁾。中でも、静岡県稲取は「つるし雛発祥の地」と言われている²⁶⁾。静岡の「雛のつるし飾り」は、雛段の両脇に、着物の端切れなどで作った一対のつるし飾りを飾るもので、江戸時代から伝わる習わしである²⁴⁾。子どもの幸せを祈り、親から子へ代々受け継がれてきたとされる。

3. 方法

(1) 調査対象・調査方法

調査対象・調査方法は前報⁹⁾に準じた。調査対象はS大学教育学部学生1年生とし、内容の異なる質問紙調査(無記名自記式)を2回実施した。1回目の調査は人生儀礼と年中行事全般(2016年4月、313名)、2回目の調査は節句に関することを検討した(2016年10月、229名)。回答は選択式(一部自由記述)とした。両調査の有効回収率・回答率はいずれも100%であった。本稿では「上巳の節句」について報告する。尚、年中行事などは地域により実施内容が異なるため、属性に関する質問項目を設けた。調査対象者の出身地を表1に示す。尚、調査では雛祭りという用語を用いた

ことを予め断っておく。既報⁹⁾より、上巳の節句（雛祭り）に対する認知率は男女とも100%、経験率は男子64.6%、女子91.7%であった。

得られたデータは、 χ^2 検定、マン・ホイットニーのU検定などにより分析を行った。分析では、対象者の性別や姉妹の有無などによる比較を行った。これは、上巳の節句が女兒を対象にした行事であることから、対象者の性別や姉妹の有無（家族内の娘の数）によって実施状況などが異なると考えたためである。文中の「男子」「女子」は調査対象者の性別、「女兒」は節句の祝いの対象となる子どもの性別を示す。また、調査対象者の女きょうだいは「姉妹」と記す。

(2) 調査項目および調査内容

1) 上巳の節句に対する実施状況

現在の雛祭りでは、菱餅・桃の花・白酒・雛あられなどを用意し、雛人形を飾って女兒の成長を祝うのが主流となっている¹¹⁾。そこで、上巳の節句における実施状況と課題を図るために、祝い方、雛人形の有無・種類・所有者を検討した。

(a) 祝い方

祝い方について「あなたは雛祭りにどんなことをしますか」と質問し、「雛人形を飾る、菱餅を飾る、桃の花を飾る、ちらし寿司を食べる、雛あられを食べる、蛤の吸い物を飲む、草餅を食べる、白酒を飲む、着物を着る、雛人形を流す、何もしない、したことがない、その他」の中から当てはまるもの全てを選択してもらった。また、菱餅、雛あられ、白酒の色や食材には意味（願い）が込められている。それぞれの色と意味について自由回答にて回答してもらった。尚、宮中では、桃の節句に親指でちぎった餅の上に餡をのせた「ひちぎり」（ひちぎり）というお菓子を食す習慣があり、茶の湯でもこの時期「ひちぎり」を用いられる²⁷⁾。ひちぎりについては、予備調査において「名前自体を知らない」者が大半であったため、本調査から省いた。

(b) 雛人形の所有の有無および所有数

雛人形の有無について「雛人形を持っていますか」と質問し、「持っている、持っていない、持っていたが捨てた」から1つ選択してもらった。「雛人形を持っている」と答えた人を所有者、その割合を所有率とした。さらに、所有者を対象に「何種類持っていますか」と質問し、「1種類、2種類、3種類以上」の中から選択してもらい、雛人形の所有数を調査した。

(c) 雛人形の種類

雛人形所有者に「どの種類の雛人形を持っていますか」と質問し、「七段飾り、三段飾り、親王飾り、ケース飾り、収納飾り、つるし飾り、立ち雛」の中から持っているもの全てを選択してもらった。ここでは、各雛人形の写真を示して回答してもらった。

七段飾りや三段飾りは段飾りの種類で、一番上に男雛・女雛（内裏雛）、二段目に三人官女、三段目以降

表1 調査対象者の出身県

地区 区分	県	人数			%		
		全体 (n=313)	男子 (n=144)	女子 (n=169)	全体 (n=313)	男子 (n=144)	女子 (n=169)
中部	静岡	221	91	130	70.6	63.2	76.9
	愛知	23	14	9	7.3	9.7	5.3
	岐阜	5	3	2	1.6	2.1	1.2
	山梨	10	8	2	3.2	5.6	1.2
	長野	5	4	1	1.6	2.8	0.6
近畿	三重	5	3	2	1.6	2.1	1.2
	京都	2	0	2	0.6	0	1.2
他	その他	42	21	21	13.4	14.6	12.4

に五人囃子などの人形や道具を階段状に飾る²⁹⁾。三段、五段、七段などの種類がある。

親王飾りは、内裏雛一対のみを飾る雛飾りである²⁹⁾。

ケース飾りは、ガラスやアクリルのケースの中に雛人形や道具が固定されたもので、飾りつけの手間がなく、埃もつかず、きれいな状態を保持できる²⁹⁾。

収納飾りは、飾り台がそのまま収納箱になっており、人形や道具をしまうことができる雛人形である²⁹⁾。

つるし飾りは、雛段の両脇に、着物の端切れなどで作った一対のつるし飾りを飾る風習である。

立ち雛は立ち姿の雛人形で、昔は紙で作られていたため、紙雛ともいう³⁰⁾。雛人形の中で最も古い歴史を持ち³⁰⁾、江戸時代以前の古い人形のかたちを伝えているといわれるが、江戸時代にも作られていた²⁸⁾。

(d) 雛人形の所有者

雛人形所有者を対象に「雛人形は誰のものですか」と質問し、「自分、姉妹、母、祖母、分からない」の中から選択してもらった。次に、雛人形所有のうち、姉妹がいる人を対象として共有状況を検討した。選択肢として「個々にある、姉妹で同じものを共有している、分からない」の中から1つ選択してもらった。

(e) 雛人形を飾る頻度

「あなたの家では、どのくらいの頻度で雛人形を飾っていますか」と質問し、「毎年飾っている、2～3年に一度飾っている、昔は飾っていなかったが今は飾っている、昔は飾っていたが今は飾っていない、飾っていない」の中から1つ選択してもらった。

(f) 雛人形を飾る理由、飾らない理由

雛人形を飾る理由を「習慣、自分や家族の雛人形がある、飾るのが楽しい、願いが込められている、生活の彩り、思い出がある、その他」の中から複数回答にて選択してもらった。調査対象は、前問の雛人形を飾る頻度の質問に対して「飾らない」と答えた5人（姉妹なしの男子2人、姉妹なしの女子3人）を除く、雛人形保有者（男子69人、女子154人）とした。

雛人形を飾らない理由を「準備が面倒、片付けが面倒、飾る必要がない、場所を取る、飾り方が分からない、時間がない、子どもが実家にいない」から選択してもらった（複数回答）。対象は、所有者のうち、前問にて「昔は飾っていたが今は飾っていない」「飾っていない」と回答した男子24人、女子79人とした。

2) 上巳の節句に対する理解

上巳の節句に対する理解度を図るために「雛祭りに込められた願いは何だと思えますか」という質問に、「健やかな成長、末長い幸せ、魔除け、厄祓い、立身出世、わからない」から当てはまると思うもの全て選択してもらった(複数回答)。

3) 将来の娘の上巳の節句(初節句)の祝い方

上巳の節句は、女兒の初節句、すなわち、人生儀礼としての意味も有する。そこで、「将来、娘が生まれたら雛人形を買いますか」という質問に「買いたい、買いたくない」のいずれかを回答してもらった。

「買いたい」と答えた人に、その理由を「こどものため、成長を願いたい、伝統を守りたい、生活の彩り、飾るのが楽しい」から当てはまるもの全てを選択してもらった。また、買いたい雛人形の種類を「七段飾り、三段飾り、親王飾り、ケース飾り、収納飾り、つるし飾り、立ち雛」から選択してもらった。「買いたくない」という人に、その理由を「飾るのが面倒、片付けが面倒、飾る必要がない、場所を取る、飾り方が分からない、高価」から複数回答で選択してもらった。

4. 結果および考察

(1) 上巳の節句の実施状況：祝い方

上巳の節句における実施状況と課題を図るために、祝い方、雛人形の有無・種類・所有者等を検討した。

現在、上巳の節句では雛人形を飾ることが多い。また、行事の縁起物として「菱餅、雛あられ、白酒、蛤の吸い物、草餅」などがあり⁵⁾、祝いの食べ物として「ちらし寿司、雛あられ、白酒、蛤の吸い物」などが知られていることから、上巳の節句での祝い方を検討した(複数回答)。また、祝いの内容により、「装飾」「飲食」「無行動・未経験」に大別して分析した。

1) 男女間の相違が及ぼす影響

全体を見た場合、最も多かったのは「雛人形を飾る」(60.7%)、次いで「ちらし寿司を食べる」(51.1%)、「雛あられを食べる」(44.1%)であった(表2)。

この順序は男女ともに同じであったが、女子は男子より有意に高く、半数以上が実施していた。これは、上巳の節句が女兒の祝いであるためと考えられる。

(a) 装飾

「雛人形を飾る」の割合が高かった一方で、「菱餅を飾る」「桃の花を飾る」は全体で約10%、「着物を着る」は0.3%、「雛人形を流す」は0%と実施率は非常に低かった(表2)。

菱餅は、現在では雛壇の飾り物という感があるが、本来、人の心臓を象ったものといわれている⁵⁾。かつて宮中では、上に菱形の餅、下に丸餅を飾り、片方が

正月の鏡餅に、もう片方が雛祭りの菱餅になったとされる⁵⁾。菱餅は、下から緑、白、赤の順に積み重ねられ、この3色にも意味が込められている。緑は健康、白は清浄、赤は魔除けを表す⁵⁾。他にも、着色に用いる食材の効能から、緑の蓬は増血剤、白の菱の実は血圧低下剤、赤の山梔子は解毒剤になるといわれている⁵⁾。諸説あるが、娘に食べさせることで長寿を願う親の愛情が表れたものといえる⁵⁾。食物の色に意味を有するものは、他に雛あられや白酒がある。これは後述する。

「桃の花を飾る」が低いのは、雛人形に桃の花(造花)がセットでついているため、桃の花(生花)を買う手間を惜しんでいる、または生花を飾る習慣や意味を知らない、習慣を知っていても居住スペースの問題などから飾れないなどが考えられる。桃は雛祭りの象徴ともいえる花であり、中国では3000年生きる仙木とされ、長寿を象徴する樹木である²⁾。このことから、行事の内容が十分に理解されておらず、季節の行事を祝う習慣が簡略化・消失していることが示唆された。

「着物を着る」の実施は特に低かった(表2)。上巳の節句で着物を着ることについて、初節句では女兒の祝い着として着物を着るのが良いとされている。また、元来、こうした行事では、初節句以外でも女兒は着物を着る習慣があった。しかし、本調査において着物を着る人が殆どいなかったことから、上巳の節句で着物を着る習慣は失われているといえる。

また、「雛人形を流す」は皆無であった(表2)。流し雛は、雛人形を川に流し送る行事で、上巳の節句では古くから人形(ひとがた)という呪具で身体を撫でて穢れを祓い流し去ることが行われており、雛人形の起源もこの呪具とされている¹¹⁾。流し雛は、かつての水辺の祓えという古い心意を伝えるものである¹¹⁾。静岡県小笠地方においても、かつては神社近くのヒナ山に登り、馳走を食べた後、不用になった古雛を海に見せてからその場に納めたり川に流したりしたとされる¹¹⁾。しかし、現在、流し雛の習慣があるのは鳥取県(用瀬の流し雛)³¹⁾や岡山県³²⁾、山口県³³⁾、京都府

表2 上巳の節句の祝い方(全体:複数回答)

内容	祝い方	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
		全体 (n=313)	男子 (n=144)	女子 (n=169)	全体 (n=313)	男子 (n=144)	女子 (n=169)	
装飾 など	雛人形を飾る	190	63	127	60.7	43.8	75.1	**
	菱餅を飾る	36	14	22	11.5	9.7	13.0	
	桃の花を飾る	31	6	25	9.9	4.2	14.8	**
	着物を着る	1	0	1	0.3	0	0.6	
	雛人形を流す	0	0	0	0	0	0	
飲食	ちらし寿司を食べる	162	54	108	51.1	37.5	63.9	**
	雛あられを食べる	138	42	96	44.1	29.2	56.8	**
	蛤の吸い物を飲む	33	6	27	10.5	4.2	16.0	**
	草餅を食べる	31	10	21	9.9	6.9	12.4	**
	白酒を飲む	7	3	4	2.2	2.1	2.4	
無行動・ 未経験	何もしない	54	40	14	17.3	27.8	8.3	**
	したことがない	14	14	0	4.5	9.7	0	**
	その他	0	0	0	0	0	0	
	無回答	1	0	1	0.3	0	0.6	

「上巳の節句にやること(祝い方)」を回答してもらった(男子144人、女子169人)。
男女間の有意差はχ²検定により行った(* p < 0.05, ** p < 0.01)。

³⁴⁾ などの近畿・中国地方を中心とした一部であり、全国的には殆ど行われておらず、静岡県も同様といえる。

(b) 飲食

上巳の節句では種々の縁起物を食べる習慣がある。ちらし寿司や雛あられは実施率が高く、女子は過半数を超えていた(表2)。雛あられは餅に砂糖を絡めて炒ったもので、デンプンが多く含まれ、健康に良いことから、一年中娘が幸せに過ごせますようにという願いが込められている⁵⁾。一方、「蛤の吸い物を飲む」「草餅を食べる」は女子でも低く(12~16%)、男子は女子より有意に低かった(4~7%)。「白酒を飲む」は男女とも2%と著しく低かった。

蛤は、蝶番の箇所が同じ貝としか合わないことから、夫婦和合のシンボルとされた縁起物であり¹⁷⁾、貞節の象徴とされている²⁾。蛤の他に、サザエや赤貝を食べる習慣があり、磯遊びの名残という説もある^{17) 35)}。「蛤の吸い物を飲む」が低いのは、蛤を上巳の節句に食することやその謂れを知らない、または知っているにもかかわらず用意する必要がないと考えているためと推測される。加えて、蛤の吸い物は既製品として販売されていることが殆ど無いことから、調理する手間を惜しんだとも考えられる。吸い物に限定していないが、近年、味噌汁を飲む食習慣が減少していること^{36) 37)}、小中学生では朝食における味噌汁の喫食頻度が低下すること、喫食しない第一の理由が「調理しないため」であることが報告されている³⁸⁾。このことから、日常(ケ)において汁物を調理・喫食する食習慣の衰退が遠因とも考えられ、特別な行事の日(ハレ)の食事にも影響を及ぼしていると考えられる。縁起物である食べ物を調理・喫食する習慣を敬遠したり省略したりするのは、行事に対する理解不足や軽視に繋がり、ひいては文化の衰退や消失に繋がると考えられる。

「草餅を食べる」(全体9.9%、表2)が低かった理由として2点考えられる。第一に、季節の違いである。本来、草餅を食べる習慣があったのは旧暦3月3日であるが、新暦の現在、材料の蓬が入手できるのは3月下旬からと時期が異なっている。蓬や草餅が出回る時期(作れる時期)にずれが生じたため、上巳の節句に食べる(または飾る)習慣が減少したと考えられる。

第二に、上巳の節句の意味(蓬による厄祓い)を知らないことが挙げられる。草餅は、雛飾りに供えられ、喫食される食べ物であり、菱餅より古くから食べられていた¹⁷⁾。平安時代、旧暦3月3日に婦女子が野に出て、邪気を祓う薬草である母子草を摘み、餅に混ぜて草餅(母子餅)を作ったとされる⁵⁾。草餅の材料は、その後、母子草同様に霊力の強い蓬が用いられるようになった^{17) 35)}。蓬は繁殖力が旺盛で、香りが強く、邪気祓いにふさわしい食物であり¹⁷⁾、中国でも1月と9月に蓬餅を食べる習慣があった⁵⁾。また、蓬は昔から漢方として強壯、消毒、止血にも使われており、餅に

混ぜて女兒の健やかな成長を願ったと考えられる⁵⁾。しかし、こうした食べ物(蓬)に込められた願いを知らないため、食べる割合が低かったと思われる。

「白酒を飲む」は全体で2.2%と、顕著に低かった(表2)。白酒は、味醂に蒸した米や麴を混ぜて1ヶ月ほど熟成させた甘く濃く白く濁った酒で⁵⁾、アルコール分は約9%である¹⁷⁾。本来、中国の上巳節で飲まれていたのは、桃の花びらを漬けた桃花酒で、桃の花は魔や邪気を祓う神聖な力があると考えられていた⁵⁾。日本でも、もともと雛祭りの祝い酒は桃の花を刻んで入れた桃花酒で、節句には不可欠なものとしてきたが²⁾、日本人の嗜好に合わなかったため、江戸時代から白酒を飲むようになった^{5) 17)}。現在は、桃花酒は器を雛壇に飾るだけとなり、実際は白酒で祝うようになっている²⁾。白酒を飲む割合が低かったのは、調査対象者の大半が未成年であったこと、白酒を用意する手間を省いたことなどが理由として推測される。

2) 食べ物の色に込められた意味

上述したように、上巳の節句に用いられる菱餅(緑、白、赤)や雛あられ(桃、緑、黄、白)、白酒(白)などの食べ物の色には意味がある。そこで、これらの色にどのような意味があるか回答してもらった。

その結果、上巳の節句の食べ物の色に意味があることを知っていた人は殆どおらず、色の意味を正しく回答できた人は皆無であった。

雛あられは、通常、桃(赤)、緑、黄、白の4色で、それぞれ桃の花(春)、若草(夏)、紅葉(秋)、雪(冬)のように四季を表す²⁾。白酒の白い色は、邪気を祓うといわれ、縁起物とされる⁵⁾。また、白酒は、桃の赤に合わせて紅白のめでたさも象徴している³⁹⁾。節句に用いられる食べ物は、色一つにも意味があり、親の願いが込められている。菱餅も雛あられも、3色(赤、緑、白)のお菓子を食すことで自然からエネルギーを授かり、健やかに成長できるという願いが込められている³⁹⁾。以上のことから、こうした行事食においては、食材のみならず、食材の色にも意味や願いがあることを理解する必要があるといえる。

3) 姉妹の有無が及ぼす影響

上巳の節句は女兒の祝いであることから、姉妹の有無による相違を検討した。

男子において、姉妹の有無により祝い方に有意差が見られたのは「雛人形を飾る」「ちらし寿司を食べる」「雛あられを食べる」であり、いずれも「姉妹あり」は「姉妹なし」より2倍以上高かった(表3)。一方、「何もしない」「したことがない」は「姉妹なし」が有意に高く、その合計は58.6%であった(姉妹あり14.4%、 $p<0.01$)。姉妹のいない男子において、雛人形を飾ったり、ちらし寿司を食べたりするのは、母親や祖母などが行っているためと思われる。同様に、女子について姉妹の有無で検討した結果、いずれも有意

差は見られなかった(表4)。

男子の「姉妹あり」(69人)と女子の「姉妹なし」(94人)を比較した場合も有意な相違は見られなかった(「蛤の吸い物を飲む」($p < 0.05$)を除く)。このことから、子どもにおける女子の数やきょうだい構成(異性・同性)の違いは、上巳の節句の祝い方に影響しないといえる。

(2) 雛人形の有無, 種類, 所有者

前項において、上巳の節句では「雛人形を飾る」人が多く、全体で約6割、女子で約8割いた(表2)。男子でも、姉妹がいる場合は65%、姉妹がいなくても24%が雛人形を飾っていた(表3)。そこで、雛人形の有無や種類, 所有者を検討した。

1) 雛人形の所有率

雛人形の所有率は、全体72.8%、男子49.3%、女子92.9%であり、男女間で有意な相違が見られた(図1, $p < 0.01$)。

姉妹の有無による影響を検討したところ、女子では有意差が見られなかった(図1)。男子は、姉妹がいる場合は78.3%、いない場合は22.7%であり、姉妹の有無が雛人形所有率に影響を及ぼすことが明らかとなった(図1)。また、姉妹のいない男子においても22.7%が雛人形を所有していた。この所有者は、母親や祖母と考えられる。これについては後述する。姉妹のいない男子において、雛人形の所有率

(22.7%)が「雛人形を飾る」割合(24.0%, 表3)よりもわずかに低かった理由は、上巳の節句と調査日の乖離が挙げられる。つまり、節句時には「雛人形を飾った」が、調査時には「(持っていたが)捨てた」(図1)ため、所有率が低かったと考えられる。

姉妹の有無が雛人形の所有数に及ぼす影響を検討した結果、女子で有意な相違が見られた(図2)。「姉妹あり」の場合、1種類69.1%、2種類20.6%、3種類10.3%であり、約3割以上が複数所有していた。一方、「姉妹なし」の場合、1種類84.3%、2種類12.4%、

表3 男子における上巳の節句の祝い方(姉妹の有無による影響)

内容	祝い方	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
		男子 (n=144)	姉妹あり (n=69)	姉妹なし (n=75)	男子 (n=144)	姉妹あり (n=69)	姉妹なし (n=75)	
装飾 など	雛人形を飾る	63	45	18	43.8	65.2	24.0	**
	菱餅を飾る	14	10	4	9.7	14.5	5.3	
	桃の花を飾る	6	4	2	4.2	5.8	2.7	
	着物を着る	0	0	0	0.0	0	0.0	
	雛人形を流す	0	0	0	0	0	0	
飲食	ちらし寿司を食べる	54	37	17	37.5	53.6	22.7	**
	雛あられを食べる	42	28	14	29.2	40.6	18.7	**
	蛤の吸い物を飲む	6	4	2	4.2	5.8	2.7	
	草餅を食べる	10	6	4	6.9	8.7	5.3	
	白酒を飲む	3	2	1	2.1	2.9	1.3	
無行動・ 未経験	何もしない	40	9	31	27.8	13.0	41.3	**
	したことがない	14	1	13	9.7	1.4	17.3	**
	その他	0	0	0	0	0	0	
	無回答	0	0	0	0	0	0	

男子における「上巳の節句にやること(祝い方)」について、姉妹の有無による影響を検討した(男子144人、複数回答)。姉妹の有無による有意差は χ^2 検定により行った(* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$)。

表4 女子における上巳の節句の祝い方(姉妹の有無による影響)

内容	祝い方	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
		女子 (n=169)	姉妹あり (n=75)	姉妹なし (n=94)	女子 (n=169)	姉妹あり (n=75)	姉妹なし (n=94)	
装飾 など	雛人形を飾る	127	56	71	75.1	74.7	75.5	
	菱餅を飾る	22	13	9	13.0	17.3	9.6	
	桃の花を飾る	25	13	12	14.8	17.3	12.8	
	着物を着る	1	0	1	0.6	0	1.1	
	雛人形を流す	0	0	0	0	0	0	
飲食	ちらし寿司を食べる	108	52	56	63.9	69.3	59.6	
	雛あられを食べる	96	47	49	56.8	62.7	52.1	
	蛤の吸い物を飲む	27	11	16	16.0	14.7	17.0	
	草餅を食べる	21	8	13	12.4	10.7	13.8	
	白酒を飲む	4	2	2	2.4	2.7	2.1	
無行動・ 未経験	何もしない	14	6	8	8.3	8.0	8.5	
	したことがない	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
	無回答	1	1	0	0.6	1.3	0	

女子における「上巳の節句にやること(祝い方)」について、姉妹の有無による影響を検討した(女子169人、複数回答)。姉妹の有無による有意差は χ^2 検定により行った(女子169人、* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$)。

3種類3.4%で、複数所有する者の割合は15.8%と、「姉妹あり」(30.9%)の半分であった($p < 0.05$)。

3) 所有する雛人形の種類

所有する雛人形の種類を検討した(複数回答)。

全体で最も多かったのは「七段飾り」39.9%、次いで「三段飾り」「親王飾り」であった(表5)。男女とも同様の傾向を示し、この3種類が上位を占めた。男子では、この3種類間の所有率に相違はなかったが、女子では「七段飾り」は他の種類よりも有意に高かった($p < 0.01$)。男女間の相違を見ると、「つるし飾り」は女子、「収納飾り」は男子が有意に高かった($p < 0.05$)。

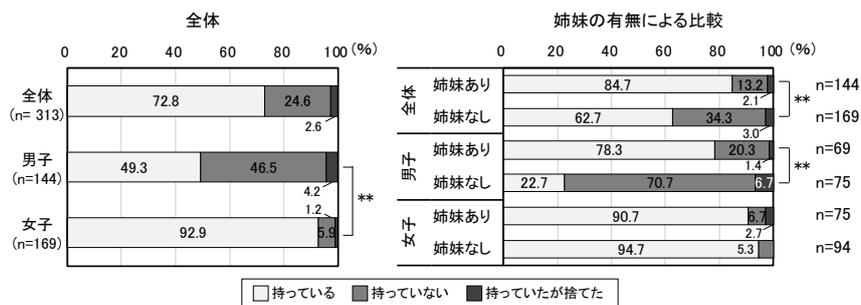


図1 雛人形の所有状況

雛人形の所有状況を、男女別、および、姉妹の有無により比較した(男子144人、女子169人)。有意差は、マン・ホイットニーのU検定を用いた(* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$)。

表5 所有する雛人形の種類(男女別)

項目	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	全体 (n=228)	男子 (n=71)	女子 (n=157)	全体 (n=228)	男子 (n=71)	女子 (n=157)	
七段飾り	91	23	68	39.9	32.4	43.3	
三段飾り	66	17	49	28.9	23.9	31.2	
親王飾り	62	20	42	27.2	28.2	26.8	
ケース飾り	27	7	20	11.8	9.9	12.7	
つるし飾り	20	2	18	8.8	2.8	11.5	*
立ち雛	7	4	3	3.1	5.6	1.9	
収納飾り	2	2	0	0.9	2.8	0	*
無回答	5	3	2	2.2	4.2	1.3	

雛人形所有者を対象として、所有する雛人形の種類を複数回答で選択してもらった。
男女間の有意差は χ^2 検定により行った(全体228人、* $p < 0.05$ 、** $p < 0.01$)。

表6 男子における所有する雛人形の種類(姉妹の有無による影響)

願い	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	男子 (n=71)	姉妹あり (n=54)	姉妹なし (n=17)	男子 (n=71)	姉妹あり (n=54)	姉妹なし (n=17)	
七段飾り	23	17	6	32.4	31.5	35.3	
三段飾り	17	13	4	23.9	24.1	23.5	
親王飾り	20	17	3	28.2	31.5	17.6	
ケース飾り	7	4	3	9.9	7.4	17.6	
つるし飾り	2	2	0	2.8	3.7	0	
立ち雛	4	2	2	5.6	3.7	11.8	
収納飾り	2	2	0	2.8	3.7	0	
無回答	3	2	1	4.2	3.7	5.9	

雛人形所有者を対象として、所有する雛人形の種類を複数回答で選択してもらった。
姉妹の有無による有意差は χ^2 検定により行った(男子71人、* $p < 0.05$ 、** $p < 0.01$)。

表7 女子における所有する雛人形の種類(姉妹の有無による影響)

項目	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	女子 (n=157)	姉妹あり (n=68)	姉妹なし (n=89)	女子 (n=157)	姉妹あり (n=68)	姉妹なし (n=89)	
七段飾り	68	34	34	43.3	50.0	38.2	
三段飾り	49	18	31	31.2	26.5	34.8	
親王飾り	42	22	20	26.8	32.4	22.5	
ケース飾り	20	10	10	12.7	14.7	11.2	
つるし飾り	18	10	8	11.5	14.7	9.0	
立ち雛	3	2	1	1.9	2.9	1.1	
収納飾り	0	0	0	0	0	0	
無回答	2	2	0	1.3	2.9	0	

雛人形所有者を対象として、所有する雛人形の種類を複数回答で選択してもらった。
姉妹の有無による有意差は χ^2 検定により行った(女子157人、* $p < 0.05$ 、** $p < 0.01$)。

次に、姉妹の有無による違いを検討した。男女とも姉妹の有無による相違は見られなかった(表6, 表7)。

調査前は、「七段飾り」や「三段飾り」などの段飾りの所有率は低く、「親王飾り」や「ケース飾り」「収納飾り」などの方が高いと考えていた。理由として、段飾りは飾る場所を取ったり、準備や片付けに手間がかかたりするため、購入時に敬遠されると考えた

めである。一方、「親王飾り、ケース飾り、収納飾り」は内裏雛のみの雛人形であるため、段飾りに比べてコンパクトで、収納場所や飾るスペースを取らず、準備や片付けなどの手間がかからない作りとなっている。親王飾りは、内裏雛一対のみのシンプルな構成で、サイズや種類も多い。ケース飾りは内裏雛が固定されて飾られており、準備や片付けが不要である。収納飾りは、飾り台がそのまま収納箱になっており、人形や道具を収納できる²⁹⁾。いずれも、近年の住宅事情の変化もあり、人気のある飾り方とされる³⁰⁾。

しかし、実際は全体の約7割が段飾りを所有していた。これは、少子化により、一人の子どもに捻出できる費用が多く、豪華なものを買う傾向があること、母親や祖母などの昔からある段飾りの雛人形が受け継がれていることなどが考えられる。また、調査対象者の多くが静岡県出身(表1)であること、静岡では雛人形や段飾りに用いられる雛具も発展している地域であることも影響していると考えられる。

4) 雛人形の所有状況・共有状況

雛人形が誰のものか、所有者を検討した。

最も多かったのは、全体では「自分」45.2%、次いで「姉妹」33.8%であった(表8)。男子は「姉妹」(52.1%)、女子は「自分」(64.3%)が最も多く、両者とも男女間で相違が見られた(表8, $p < 0.01$)。男子は、「母」「祖母」を合わせた割合(45.2%)が、女子(21.0%)よりも有意に高かった($p < 0.01$)。

姉妹の有無が所有状況に及ぼす影響を検討した。男子では「姉妹なし」は「姉妹あり」に比べて、「母」や「祖母」の割合が有意に高かった(表9, $p < 0.05$)。女子では姉妹の有無にかかわらず、「自分」と回答する者の割合が高く、「姉妹あり」(50.0%)に比べて「姉妹なし」(75.3%)の方が有意に高かった(表10, $p < 0.01$)。このことから、姉妹がいない場合は、自分専用の雛人形を所有しているといえる。

姉妹がいる場合、「自分」50.0%、「姉妹」56.5%であり、割合がほぼ同数であったことから、自分専用の雛人形を有する一方で、姉妹と共有している、または、姉妹の雛人形はあるが自分はないという状況があ

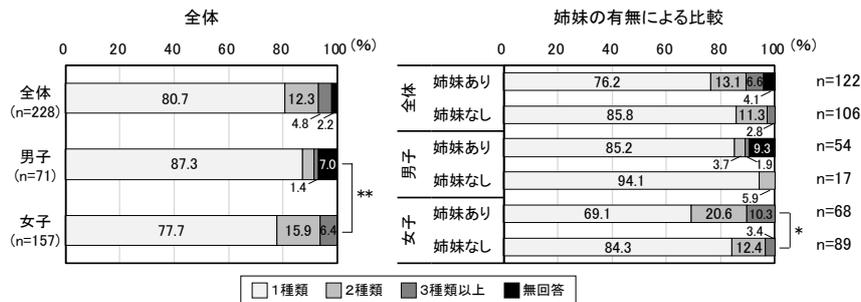


図2 所有する雛人形の数

雛人形の所有者を対象に、所有数を検討した(男子71人、女子157人)。また、姉妹の有無による影響についても検討した。男女別、および、姉妹の有無による有意差は、マン・ホイットニーのU検定を用いた(* $p < 0.05$ 、** $p < 0.01$)。

表8 雛人形の所有者(全体、複数回答)

所有者	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	全体 (n=228)	男子 (n=71)	女子 (n=157)	全体 (n=228)	男子 (n=71)	女子 (n=157)	
自分	103	2	101	45.2	2.8	64.3	**
姉妹	77	37	40	33.8	52.1	25.5	**
母	43	16	27	18.9	22.5	17.2	
祖母	15	9	6	6.6	12.7	3.8	*
不明	37	14	23	16.2	19.7	14.6	

雛人形所有者を対象として、「雛人形は誰のものか」を複数回答で選択してもらった。男女間の有意差は χ^2 検定により行った(男子71人、女子157人、* $p < 0.05$ 、** $p < 0.01$)。

表9 男子における雛人形の所有者(複数回答)

所有者	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	男子 (n=71)	姉妹あり (n=54)	姉妹なし (n=17)	男子 (n=71)	姉妹あり (n=54)	姉妹なし (n=17)	
自分	2	1	1	2.8	1.9	5.9	
姉妹	37	37	0	52.1	68.5	0	**
母	16	9	7	22.5	16.7	41.2	*
祖母	9	4	5	12.7	7.4	29.4	*
不明	14	8	6	19.7	14.8	35.3	

雛人形所有者を対象として、「雛人形は誰のものか」を検討した(複数回答)。姉妹の有無による相違を検討した。有意差は χ^2 検定により行った(男子71人、* $p < 0.05$ 、** $p < 0.01$)。

表10 女子における雛人形の所有者(複数回答)

所有者	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	女子 (n=157)	姉妹あり (n=68)	姉妹なし (n=89)	女子 (n=157)	姉妹あり (n=68)	姉妹なし (n=89)	
自分	101	34	67	64.3	50.0	75.3	**
姉妹	40	40	0	25.5	58.8	0	**
母	27	13	14	17.2	19.1	15.7	
祖母	6	3	3	3.8	4.4	3.4	
不明	23	11	12	14.6	16.2	13.5	

雛人形所有者を対象として、「雛人形は誰のものか」を検討した(複数回答)。姉妹の有無による相違を検討した。有意差は χ^2 検定により行った(女子157人、* $p < 0.05$ 、** $p < 0.01$)。

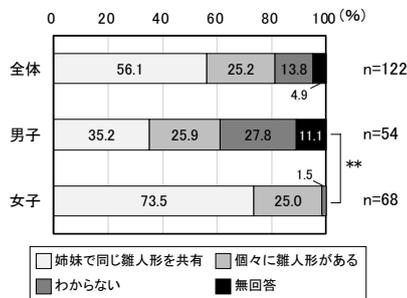


図3 所有する雛人形の共有状況

「雛人形を所有しており、かつ、姉妹がいる」と答えた人を対象に、雛人形の共有状況を検討した(男子54人、女子68人)。男女間の有意差はマン・ホイットニーのU検定を用いた(* $p < 0.05$ 、** $p < 0.01$)。

ると考えられる。そこで、「雛人形を所有し、かつ、姉妹がいる」人を対象として、雛人形の共有状況を検討した。

姉妹がいる女子の場合、「姉妹と同じ雛人形を共有」が最も多く(73.5%)、次いで「個々に雛人形がある」(25.0%)であった(図3)。

以上より、1人っ子、または、子どもの中で女性(娘)は自分のみという場合において、自分専用の雛人形を買ってもらえる傾向にあり、姉妹がいる場合は、姉妹で同じものを共有している場合が多いといえる。

雛人形は、本来、子どもの身代わりになって厄を受

ける「お守り」⁴⁰⁾の意味があり、基本的には初節句の際に女兒1人に対して1つずつ贈られるべきと考えられている。そのため、姉妹で兼用したり、親子間で譲渡したりすることは、本来は避けるべきものである。一方で、実際には多くの家庭で雛人形が共有されていることが明らかとなった。先の設問で「七段飾り」が多かったことから、住宅事情によるというよりも、上巳の節句の謂れやルールを知らないためと考えられる。

(3) 雛人形を飾る頻度

雛人形所有者を対象として、飾る頻度を検討した。

全体で多かったのは「毎年飾る」49.1%、次いで「昔は飾っていたが、今は飾っていない」43.0%であった(図4、両者間で有意差なし)。男女を比較すると、「毎年飾る」割合は、男子(59.2%)の方が女子(44.6%)よりも有意に高かった($p < 0.05$)。

そこで、姉妹の有無による影響を男女別に検討した。

「毎年飾る」の割合は、男子は「姉妹あり」63.0%、「姉妹なし」47.1%であった(図4)。前者は、娘以外にも母親や祖母など家族に女性が複数おり、後者よりも家族における女性の数が多いことを示す。両者間で有意差は見られなかったが、家族内の女性構成員数が多い方、または、娘がいる方が、毎年雛人形を飾る頻度が高い傾向にあるといえる。

女子は「姉妹あり」54.4%、「姉妹なし」37.1%であり、前者が有意に高かった($p < 0.05$, 図4)。一方、「昔は飾っていたが、今は飾っていない」と「飾っていない」を合わせた割合を見ると、「姉妹あり」は「姉妹なし」よりも有意に低かった($p < 0.05$)。このことから、女子においても、家族における女性の数が多い方が毎年雛人形を飾る頻度が高く、かつ、姉妹の有無は飾り方にも影響を与えると見える。

女子において、「昔は飾っていたが、今は飾っていない」と「飾っていない」を合わせた割合は50.3%であり、約半数が現在は飾っていないことが示された。これは、上巳の節句が女兒の成長を願う祝いであるため、「子どもの行事」という認識が高く、ある程度成長したら祝う必要を感じなくなっている、あるいは雛人形所有者の多くが七段飾り・三段飾りなどの段飾りが多かったため、準備や片付けの大変さから飾るのを敬遠するようになったと考えられる。

また、「2~3年に一度飾る」や「昔は飾っていないが、今は飾っている」は、性別や姉妹の有無(家族内の女性数)に関わらず、著しく低かった(図4)。

以上のことから、雛人形は「毎年飾る」、または、「(昔は飾っていたが)今は飾らない」のいずれかに二分された状態にあるといえる。

(4) 雛人形を飾る理由

雛人形を飾る習慣がある人を対象として、雛人形を飾る理由を検討した。

全体では「習慣」が66.2%と最も多く、次いで「自

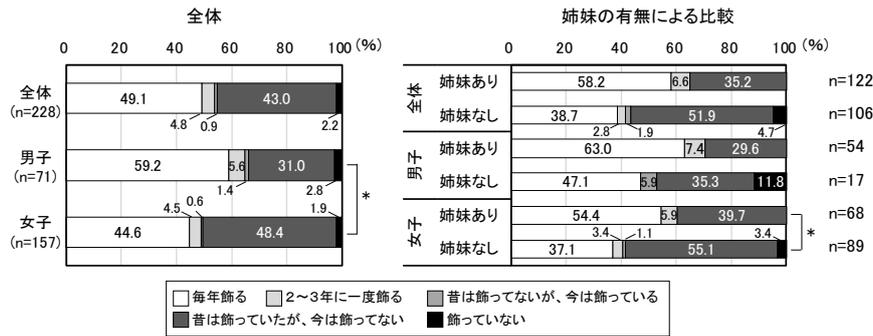


図4 雛人形を飾る頻度

雛人形所有者を対象に、雛人形を飾る頻度を検討した(男子71人、女子157人)。また、姉妹の有無による影響についても検討した。男女間、および、姉妹の有無による有意差は、マン・ホイットニーのU検定を用いた(* p<0.05, ** p<0.01)。

表11 雛人形を飾る理由(全体、複数回答)

項目	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	全体 (n=223)	男子 (n=69)	女子 (n=154)	全体 (n=223)	男子 (n=69)	女子 (n=154)	
習慣	151	50	101	67.7	72.5	65.6	
自分や家族の雛人形がある	80	17	63	35.9	24.6	40.9	*
伝統を守りたい	42	11	31	18.8	15.9	20.1	
飾るのが楽しい	40	3	37	17.9	4.3	24.0	**
願いが込められている	36	6	30	16.1	8.7	19.5	*
生活の彩り	34	4	30	15.2	5.8	19.5	**
思い出がある	18	4	14	8.1	5.8	9.1	
その他	9	4	5	4.0	5.8	3.2	

雛人形の所有者について、複数回答で選択してもらった(「飾っていない」人(5人)は調査から除いた)。男女間の有意差はχ²検定により行った(男子69人、女子154人、* p<0.05, ** p<0.01)。

表12 男子における雛人形を飾る理由(複数回答)

項目	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	男子 (n=69)	姉妹あり (n=54)	姉妹なし (n=15)	男子 (n=69)	姉妹あり (n=54)	姉妹なし (n=15)	
習慣	50	38	12	72.5	70.4	80.0	
自分や家族の雛人形がある	17	13	5	24.6	24.1	33.3	
伝統を守りたい	11	9	2	15.9	16.7	13.3	
飾るのが楽しい	3	3	0	4.3	5.6	0	
願いが込められている	6	4	2	8.7	7.4	13.3	
生活の彩り	4	4	0	5.8	7.4	0	
思い出がある	4	4	0	5.8	7.4	0	
その他	4	1	2	5.8	1.9	13.3	

雛人形所有者について、複数回答で選択してもらった(「飾っていない」人(2人)は除いた)。姉妹の有無による相違を検討した。有意差はχ²検定により行った(男子71人、* p<0.05, ** p<0.01)。

表13 女子における雛人形を飾る理由(複数回答)

項目	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	女子 (n=154)	姉妹あり (n=68)	姉妹なし (n=86)	女子 (n=154)	姉妹あり (n=68)	姉妹なし (n=86)	
習慣	101	45	56	65.6	66.2	65.1	
自分や家族の雛人形がある	63	24	38	40.9	35.3	44.2	
伝統を守りたい	31	11	20	20.1	16.2	23.3	
飾るのが楽しい	37	15	22	24.0	22.1	25.6	
願いが込められている	30	14	16	19.5	20.6	18.6	
生活の彩り	30	10	20	19.5	14.7	23.3	
思い出がある	14	7	7	9.1	10.3	8.1	
その他	5	3	2	3.2	4.4	2.3	

雛人形所有者について、複数回答で選択してもらった(「飾っていない」人(3人)は除いた)。姉妹の有無による相違を検討した。有意差はχ²検定により行った(女子154人、* p<0.05, ** p<0.01)。

分や姉妹の雛人形がある」であった(表11)。「伝統を守りたい」や「願いが込められている」など、年中行事の継承に関する理由は、全体で15%程度であった。

「飾るのが楽しい」「生活の彩り」など情緒的な理由は全体で約15%であり、女子は男子よりも有意に高買った。女子は、上巳の節句を華やかで楽しい祝いの行事として捉えていると考えられる。

姉妹の影響を検討した結果、男女とも姉妹の有無は飾る理由に影響を及ぼしていなかった(表12,表13)。

(5) 雛人形を飾らない理由

「飾らない理由」については、準備や片付けなどの手間や時間・場所を理由にする者が多かった(表14-16)。全体では「準備が面倒」65.1%、「片付けが面倒」38.5%、「場所を取る」25.0%、「時間がない」22.0%であった(表14)。「飾り方が分からない」という理由も見られた。これは、七段飾りや三段飾りなどの段飾りを所有している人が多いためと考えられる。

一方、「飾る必要がない」が24.8%いた。これは、

上巳の節句の起源に対する理解不足と考えられる。本来、上巳の節句は厄祓いや魔除の行事³⁹⁾であり、自分の身代わりとして雛人形が重要な役割を果たす。このことから、こうした背景を学ぶ機会が必要といえる。

1) 男女の相違

男子は「準備が面倒」(87.5%)、「飾り方が分からない」(50.0%)が、女子より有意に高かった。女子は「飾り方が分からない」は1割以下であったが、「場所を取る」が男子より有意に多かった(男子0%、女子39.2%、表14)。これは、男子は雛人形を飾る作業を実際には行わないため、飾る場所や設置については他人事として捉えていると考えられる。一方で、女子の所有する雛人形の多くが段飾りであることから、飾る場合には場所を取ることを、その場所を確保する必要があることから、飾らなくなったと考えられる。

2) 姉妹の有無による影響

特徴的であったのは、女子において「姉妹あり」と「姉妹なし」で大きな相違が見られ、姉妹(娘)の数

表14 雛人形を飾らない理由(全体、複数回答)

項目	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	全体 (n=103)	男子 (n=24)	女子 (n=79)	全体 (n=103)	男子 (n=24)	女子 (n=79)	
準備が面倒	71	21	50	65.1	87.5	63.3	*
片付けが面倒	42	9	33	38.5	37.5	41.8	
場所を取る	31	0	31	28.4	0	39.2	**
飾る必要がない	27	19	8	24.8	79.2	10.1	**
時間がない	24	5	19	22.0	20.8	24.1	
飾り方が分からない	19	12	7	17.4	50.0	8.9	**
子が実家にいない	14	6	8	12.8	25.0	10.1	
その他	5	0	5	4.6	0	6.3	

雛人形所有者で「今は飾っていない」「飾っていない」と回答した人を選択してもらった。
男女間の有意差は χ^2 検定により行った(男子24人、女子79人、* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$)。

表15 男子における雛人形を飾らない理由(複数回答)

項目	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	男子 (n=24)	姉妹あり (n=16)	姉妹なし (n=8)	男子 (n=24)	姉妹あり (n=16)	姉妹なし (n=8)	
準備が面倒	21	16	5	87.5	100.0	62.5	**
片付けが面倒	9	5	4	37.5	31.3	50.0	
場所を取る	0	0	0	0	0	0	
飾る必要がない	19	11	8	79.2	68.8	100.0	
時間がない	5	5	0	20.8	31.3	0	
飾り方が分からない	12	11	1	50.0	68.8	12.5	**
子が実家にいない	6	5	1	25.0	31.3	12.5	
その他	0	0	0	0	0	0	

雛人形所有者で「今は飾っていない」「飾っていない」と回答した人を選択してもらった。姉妹の有無による相違を検討した。有意差は χ^2 検定により行った(男子24人、* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$)。

表16 女子における雛人形を飾らない理由(複数回答)

項目	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	女子 (n=79)	姉妹あり (n=27)	姉妹なし (n=52)	女子 (n=79)	姉妹あり (n=27)	姉妹なし (n=52)	
準備が面倒	50	7	43	63.3	25.9	82.7	**
片付けが面倒	33	0	33	41.8	0	63.5	**
場所を取る	31	7	24	39.2	25.9	46.2	
飾る必要がない	8	3	5	10.1	11.1	9.6	
時間がない	19	0	19	24.1	0	36.5	**
飾り方が分からない	7	7	0	8.9	25.9	0	**
子が実家にいない	8	3	5	10.1	11.1	9.6	
その他	5	0	5	6.3	0	9.6	

雛人形所有者で「今は飾っていない」「飾っていない」と回答した人を選択してもらった。姉妹の有無による相違を検討した。有意差は χ^2 検定により行った(女子79人、* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$)。

が大きく影響していたことである(表16)。すなわち、娘が複数の場合(姉妹あり)と1人の場合(姉妹なし)を比較すると、後者は「準備が面倒」(82.7%)、「片付けが面倒」(63.5%)、「時間がない」(36.5%)がいずれも前者よりも著しく高かった($p < 0.01$)。

一方、姉妹がいた場合、「準備が面倒」は約25%と有意に低く($p < 0.01$)、「片付けが面倒」や「時間がない」は0%であった。

これは、姉妹がいる場合は雛人形を共有することが多いこと(図3)なども影響し、段飾りであっても姉妹と一緒に準備したり片付けたりすることにより、飾ることに対する負担感が軽減すると考えられる。加えて、「姉妹なし」の方が「昔は飾っていたが、今は飾っていない」と「飾っていない」の合計が58.5%であるのに対し、「姉妹あり」は39.7%と有意に低いこと

(図4, $p < 0.05$)からも、姉妹がいることによって雛人形を飾るという年中行事が継続して行われ、伝統が継承されやすいことを示しているといえる。

雛人形は立春(2月4日)頃から2月中旬、遅くとも節句の1週間前には飾り、3月3日の翌日には片付けるのが望ましいとされる(雛納め)^{39) 41)}。これは片付けができないと女児の婚期が遅れる¹³⁾という躰の側面と、流し雛の風習では早くに川に流さないと厄災が降りかかるからという背景がある⁴⁰⁾。いずれにしても、子どもと一緒に片付けをすることで、人形を大切にすることを育てることができる⁴⁰⁾。近年は、住宅事情や少子化、生活スタイルの変化などにより、段飾りよりもコンパクトな収納飾りなどに人気があるとされる。一方、静岡県は雛人形や雛具が盛んであることから、こうした地域の伝統文化継承のためにも、女児が生まれたら雛飾りを購入し、親と娘(あるいは姉妹)と一緒に飾り、手間を惜しまないことを習慣づけ、行事の内容を共に理解することが重要である。家庭で行われる行事は家庭内で継承していくという意識をもち、行動する必要があるといえる。

(6) 上巳の節句に対する理解(願い)

上巳の節句の謂れに対する理解度を図るために、「雛祭りに込められた願い」を検討した(複数回答)。

1) 男女、姉妹の有無による相違

全体で最も多かったのは、「健やかな成長」74.4%、次いで「未永い幸せ」31.0%であった(表17)。男女とも同様の傾向を示し、女子の方が男子よりも有意に高かった($p < 0.01$)。一方、「魔除け」「厄払い」は、男女とも1割以下と低かった。

理由として、現代では、上巳の節句は雛人形を飾って娘の健やかな成長と幸せを祈る華やかなお祝い⁴²⁾として定着しているためと考えられる。本来、上巳の節句の起源は、厄払いや魔除けの風習¹¹⁾であるが、そうした認識が時代とともに薄れ、大学生は謂れに対する理解が不足していると考えられる。

姉妹の有無の影響を検討した結果、姉妹の有無による有意な相違は見られなかった(表18)。このことから、姉妹の構成は上巳の節句に込められた願いに対する理解に影響を及ぼさないといえる。

2) 経験の有無が及ぼす影響

上巳の節句の経験の有無が、願いに対する理解に及ぼす影響を検討した。前述(表2)の上巳の節句の祝い方で「何もしない」「したことがない」を「経験なし」(未経験群)、それ以外を「経験あり」(経験群)として検討した。男子は未経験群51人、経験群93人、女子は未経験群14人、経験群155人であった。

ここでは、男子に着目した。全ての項目について、実施経験の有無と願いの認識の間に有意差は見られなかった(表19)。このことから、上巳の節句に関する願いに、実施経験の有無は影響しないといえる。

7) 将来の娘への上巳の節句の祝い方

1) 雛人形の購入意欲と理由

表17 上巳の節句に込められた願い(全体、複数回答)

願い	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	全体 (n=313)	男子 (n=144)	女子 (n=169)	全体 (n=313)	男子 (n=144)	女子 (n=169)	
健やかな成長	233	96	137	74.4	66.7	81.1	**
末永い幸せ	97	33	64	31.0	22.9	37.9	**
魔除け	28	13	15	8.9	9.0	8.9	
厄祓い	27	14	13	8.6	9.7	7.7	
立身出世	11	7	4	3.5	4.9	2.4	
わからない	47	32	15	15.0	22.2	8.9	**

「上巳の節句に込められた願い」について、複数回答で選択してもらった。太字を正解とした。男女間の有意差はχ²検定により行った(男子144人、女子169人、* p<0.05、** p<0.01)。

表18 男子における上巳の節句に込められた願い(姉妹の影響)

願い	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	男子 (n=144)	姉妹あり (n=69)	姉妹なし (n=75)	男子 (n=144)	姉妹あり (n=69)	姉妹なし (n=75)	
健やかな成長	96	49	47	66.7	71.0	62.7	
末永い幸せ	33	18	15	22.9	26.1	20.0	
魔除	13	5	8	9.0	7.2	10.7	
厄払	14	5	9	9.7	7.2	12.0	
立身出世	7	4	3	4.9	5.8	4.0	
わからない	32	13	19	22.2	18.8	25.3	

「上巳の節句に込められた願い」について、複数回答で選択してもらった。太字を正解とした。姉妹による相違はχ²検定により行った(男子144人、* p<0.05、** p<0.01)。

表19 男子における上巳の節句に込められた願い(実施経験による影響)

願い	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	男子 (n=144)	経験あり (n=93)	経験なし (n=51)	男子 (n=144)	経験あり (n=93)	経験なし (n=51)	
健やかな成長	96	62	34	66.7	66.7	66.7	
末永い幸せ	31	23	8	22.9	24.7	15.7	
魔除け	13	6	7	9.0	6.5	13.7	
厄祓い	13	7	6	9.7	7.5	11.8	
立身出世	11	10	1	4.9	10.8	2.0	
わからない	32	19	13	22.2	20.4	25.5	

「上巳の節句に込められた願い」について、複数回答で選択してもらった。太字を正解とした。経験の有無による有意差はχ²検定により行った(男子144人、* p<0.05、** p<0.01)。

上巳の節句は年中行事として以外に、女兒の初節句という人生儀礼としての側面もある。そこで「将来、娘が生まれたら雛人形を買いますか」と質問した。

「買いたい」は男女とも過半数を超えており、女子は男子により有意に高かった(図5, p<0.01)。

次に、現在の雛人形所有の有無が購入意欲に及ぼす影響を検討した。その結果、女子で相違が見られ、現在の所有者は未所有者よりも購入意欲が有意に高かった(図5, p<0.05)。

購入希望者にその理由を質問したところ、最も多かったのは「子どものため」であり(全体63.1%)、次いで「成長を願いたい」58.3%であり、男女においても同様の傾向が見られた(表20)。

上巳の節句に込められた願い(表17)において、「健やかな成長」と回答する人が多かったことから、自分の娘に対しても健やかな成長を願う姿勢が伺える。また、「伝統を守りたい」は48.7%であり、伝統文化として残したいと考えているのは約半数であった。

そこで、「女兒の初節句の時期や祝い方を知っているか」と質問した結果、「知っている」はほぼ皆無であった。このことから、大学

生は上巳の節句が「初節句」という人生儀礼の側面をもつことを理解していないといえる。一方、年中行事としての上巳の節句については実施率や関心が高かったことから、本行事が初節句という人生儀礼でもあることについて理解を促す機会を設ける必要があるといえる。

娘の雛人形を「買いたくない」は、男子22.2%、女子5.9%と低かった(図5)。理由として、手間や場所、経済的理由を挙げる者が多く、男子は「飾るのが面倒」48.1%や「高価」44.4%、女子は「場所を取る」62.5%であり、「飾る必要がない」など文化継承を軽視する回答は少なかった(男子25.9%、女子12.5%)。男女とも、現在所有している雛人形を飾らない理由と重なっていることが分かる。

2) 雛人形の購入の意欲

将来、娘に買いたい雛人形の種類を質問した。また、調査対象者が現在所有している雛人形の種類により、グループ分けして分析した。七段飾りや三段飾りの所有者を「段飾り群」、親王飾り・収納飾り・ケース飾りの所有者を「コンパクト群」とした。

その結果、段飾り群は段飾り、コンパクト群はコン

表20 雛人形を買いたい理由(複数回答)

項目	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
	全体 (n=271)	男子 (n=112)	女子 (n=159)	全体 (n=271)	男子 (n=112)	女子 (n=159)	
子どものため	171	76	95	63.1	67.9	59.7	
成長を願いたい	158	62	96	58.3	55.4	60.4	
伝統を守りたい	132	57	75	48.7	50.9	47.2	
生活の彩り	51	19	32	18.8	17.0	20.1	
飾るのが楽しい	34	9	25	12.5	8.0	15.7	
その他	7	3	4	2.6	2.7	2.5	

自分の娘に雛人形を買いたいと答えた人に、理由を複数回答で選択してもらった。男女間の有意差はχ²検定により行った(男子112人、女子159人、* p<0.05、** p<0.01)。

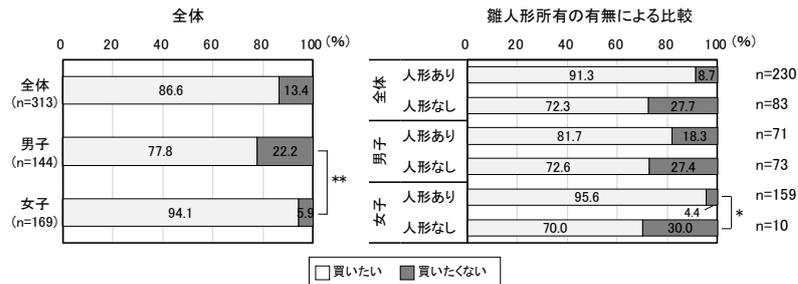


図5 娘への雛人形の購入意欲

将来、自分の娘に雛人形を購入したいかどうか、意欲を調査した。また、現在、雛人形を所有しているか否かによる影響を検討した。男女間、および、所有の有無による有意差は、マン・ホイットニーのU検定を用いた(* p<0.05、** p<0.01)。

表21 買いたい雛人形の種類(複数回答)

種類	項目	人数(複数回答)			% (複数回答)			有意差
		全体 (n=271)	段飾り群 (n=156)	コンパクト群 (n=115)	全体 (n=271)	段飾り群 (n=156)	コンパクト群 (n=115)	
段飾り	三段飾り	85	70	15	31.4	44.9	13.0	**
	七段飾り	50	37	13	18.5	23.7	11.3	*
コンパクト飾り	ケース飾り	71	33	38	26.2	21.2	33.0	
	親王飾り	59	14	45	21.8	9.0	39.1	**
	収納飾り	7	3	4	2.6	1.9	3.5	

雛人形所有者で、かつ、「娘に雛人形を購入したい」という人について、雛人形の種別を複数回答で選択してもらった。現在、所有している雛人形の種別によって、グループ分けして検討した。所有する雛人形が「七段飾り」「三段飾り」の人を「段飾り群」(156人)、「親王飾り、収納飾り、ケース飾り」を「コンパクト飾り群」(115人)として分析した。有意差は χ^2 検定により行った(* $p<0.05$, ** $p<0.01$)。

コンパクト飾りの購入を希望していた(表21)。段飾り群はコンパクト群に比べて、段飾りの割合が2~4倍高かった($p<0.01$)。段飾り群では、七段飾り(23.7%)よりも三段飾り(44.9%)が有意に高かった。現在は七段飾り所有者の方が多いが(表5)、準備や片付け、設置場所などの点から、将来の娘には三段飾りを希望していると考えられる(表14~16)。

コンパクト群は、段飾り希望は約10%であるのに対し、コンパクト飾り(ケース飾り、親王飾り)の希望者は約30~40%と、後者が有意に高かった(表21)。

このことから、現在所有している雛飾りの種類が、将来の娘の雛人形の購入の有無や内容にも影響を及ぼすことが示された。自分が所有していない場合は購入意欲も低いことから(図5)、こうした行事を傳承していくためには、行事(年中行事、人生儀礼)の歴史や内容、その意味などの知識を修得するとともに、生活の中で実施していくことが重要といえる。

5. まとめ

本稿では、年中行事と人生儀礼の両要素を併せ持つ、上巳の節句について認知と行動のあり方を検討した。

祝い方では、雛人形を飾る割合が顕著に高かった一方で、菱餅や桃の花を飾る割合は低かった。縁起物の食べ物として、ちらし寿司や雛あられの喫食率は高かったが、蛤の吸い物、草餅、白酒などは著しく低かった。これら行事に関わる縁起物に込められた願い、食べ物の色の意味に対する理解は顕著に不足していた。

雛人形の所有率は高く、段飾りの所有者が多かった一方で、同じ人形を姉妹と共有するなど、雛人形の本来の意味を理解していない様子が窺えた。また、雛人形を所有していても、女子の半数が現在は飾っていない。理由として、準備や片付けが面倒、場所をとるなどが挙げられたが、姉妹がいる場合には、姉妹がいない場合よりも、そうした理由を挙げる者が少なかった。このことから、家族構成(姉妹の存在)がこうした行事の実施や傳承に影響を及ぼすといえる。

将来、自分の娘に対する雛人形の購入意欲や種別を検討した。女子は、雛人形所有者における購入意欲が高かった。現在、所有している雛人形の種別は娘の雛人形の種別にも影響しており、段飾り所有者は段飾り、

親王飾りやケース飾りなどの所有者はコンパクトな雛飾りを希望する人が有意に多かった。

年中行事や人生儀礼は、戦後の生活の変化が儀礼自体の変化と消長に多大な影響を与えているといわれている¹⁾。時代が変化する中で、行事や行事に関わる事物(装飾や食べ物、しきたり)をどのように傳承していくかが重要である。その繼承には人生儀礼や年中行事に込められた願いや意味、歴史などを理解するとともに、実際に自分で実践することが重要である。今後は、本研究の成果をもとに教材開発を行い、伝統文化繼承のための知識・技能の習得に繋げていきたい。

調査に協力いただきましたS大学教育学部学生の皆様に感謝申し上げます。

参考文献

- 岡田啓助, 岡中正行, 沖永宣司, 加藤健司: 日本文化を知る続, おうふう, pp. 88-89 (2001)
- 主婦の友社 編: 冠婚葬祭実用大事典, 主婦の友社, pp. 188-189, pp. 230-231 (2001)
- 倉石あつ子, 小松和彦, 宮田 登編: 人生儀礼事典, 小学館, p. 53 (2000)
- 永田美穂: 面白くてためになる! 日本のしきたり, PHP 研究所, pp. 3-4 (2012)
- 高橋司: 食で知ろう 季節の行事, 長崎出版, p. 8, pp. 32-34, p. 116 (2008)
- 農林水産省: IV. 『伝統文化』が息づく地域社会の維持・継承, https://www.maff.go.jp/j/nousin/soutyo/binosato_gaidorain/pdf/068p089s4.pdf (2004) (2023. 11. 20 取得)
- 真部真里子, 橋本慶子: 年齢層による年中行事の認知と実施状況の相異, 日本家政学会誌, 53(5), 407-415 (2002)
- 鷺見裕子: 行事食に関する意識と実態, 高田短期大学紀要, 30, 141-150 (2012)
- 村上陽子, 高橋沙南, 鳥居優理香, 信國瑞希: 若者世代における人生儀礼および年中行事の現状と課題: 認知度と経験率, 静岡大学教育学部研究報告 教科教育学篇, 55, 35-48 (2023)
- 村上陽子, 信國瑞希, 鳥居優理香, 高橋沙南: 若

- 者世代における人生儀礼の現状と課題—産育儀礼に着目して—, 静岡大学教育学部研究報告 人文・社会・自然科学篇, 74, 73-92 (2023)
- 11) 田中宣一, 宮田登 編: 年中行事事典改訂版, 三省堂, p. 1, pp. 183-187 (2012)
 - 12) 小笠原敬承斎: 暦のたしなみ, ワニブックス, pp. 64-65 (2013)
 - 13) 飯倉晴武 編著: 日本人のしきたり, 青春出版社, p. 51, p. 63 (2003)
 - 14) 谷口貢, 板橋春夫編著: 日本人の一生, 八千代出版, p. 70 (2014)
 - 15) 日本風俗史学会 編: 日本風俗史事典, 弘文堂, pp. 301-302 (1994)
 - 16) 永井とも子: 儀礼は人生を拓く, ヒーロー出版, pp. 160-161 (2009)
 - 17) 『現代用語の基礎知識』編集部 編著: 日本のたしなみ帖 縁起物, 自由国民社, pp. 32-34 (2016)
 - 18) 文部科学省: 小学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 総則編, 東洋館出版社, p. 29 (2018)
 - 19) 文部科学省: 中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 総則編, 東山書房, pp. 29-30 (2018)
 - 20) 文部科学省: 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示) 解説 総則編, 東洋館出版社, pp. 33-34 (2019)
 - 21) 静岡市: 駿河雛具・雛人形, <https://www.city.shizuoka.lg.jp/000862652.pdf> (2021. 3. 25 更新)
 - 22) 静岡県郷土工芸品振興会: 駿河雛具, <http://www.shizuoka-kougei.jp/craft/suruga-hinagu/> (2023. 12. 20 取得)
 - 23) 静岡県郷土工芸品振興会: 駿河雛人形, <http://www.shizuoka-kougei.jp/craft/suruga-hina-ningyo/> (2023. 12. 20 取得)
 - 24) 稲取温泉旅館協同組合: 雛のつるし飾り, <https://inatorionsen.or.jp/hina/> (2023. 12. 20 取得)
 - 25) つるしびな大百科: つるし雛 ゆかりの地 <http://www.tsurushi.jp/origin/index.html#02> (2023. 12. 20 取得)
 - 26) 静岡・浜松・伊豆情報局: 第 27 回雛のつるし飾りまつり・伊豆稲取・2024, <https://shizuoka-hamamatsu-izu.com/event/inatoritsurushifes/> (2023. 12. 20 取得)
 - 27) 芳野宗春: 日本の歳時としきたりを楽しむ, PHP 研究所, pp. 42-45 (2014)
 - 28) 京都国立博物館: おひなさまの話, <https://www.kyohaku.go.jp/jp/learn/home/dictio/senshoku/hina/> (1993. 3. 13 更新)
 - 29) 吉徳: 【2024 年】雛人形のおすすめ人気ランキング 10 選, <https://www.yoshitoku.co.jp/hina/column/ranking> (2023. 12. 20 取得)
 - 30) 雛人形の選び方: 種類で選ぶ, <https://hinaningyo-erabikata.com/select-category/by-type/> (2023. 12. 5 取得)
 - 31) 文化庁: 用瀬の流しびな, <https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/540128> (2023. 12. 5 取得)
 - 32) 笠岡市役所: 北木島の流し雛, <https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/39/2452.html> (2023. 12. 5 取得)
 - 33) 山口: 萩市観光協会公式サイト: 流し雛, <https://www.hagishi.com/search/detail.php?d=900010> (2023. 12. 5 取得)
 - 34) 京都: 京人形商工業協同組合: 流し雛, <http://www.kyo-ningyo.com/kyosaijiki/nagashihina/> (2023. 12. 5 取得)
 - 35) 新谷尚紀監修: 日本の「行事」と「食」のしきたり, 青春新書, pp. 85-90 (2004)
 - 36) 山内加代子, デュアー貴子, 棚橋亜矢子, 松本富美子: 大学生の味噌汁嗜好と塩分濃度の関連性, 日本家政学会研究発表要旨集, 68(0), 179 (2016)
 - 37) 岡玲子: 若い女性の味噌汁摂取に関する調査, 日本食生活学会誌, 9(3), 78-83 (1998)
 - 38) 守田真里子, 南久則: 小中学生の朝食内容と生活リズム及び学習意欲, 健康状態の関連性～摂取食品数と味噌汁摂取の影響～, 日本食育学会誌, 12(2), 173-182 (2018)
 - 39) 山上徹: 食文化とおもてなし, 学文社, pp. 108-109 (2012)
 - 40) ミニマル, ブロックバスター: 日本のしきたり, 彩国社, p. 73 (2013)
 - 41) 『現代用語の基礎知識』編集部 編著: 日本のたしなみ帖 季節のことば, 自由国民社, p. 40 (2015)
 - 42) 火田博文: 日本のしきたりが楽しくなる本, 彩国社, pp. 30-31 (2018)